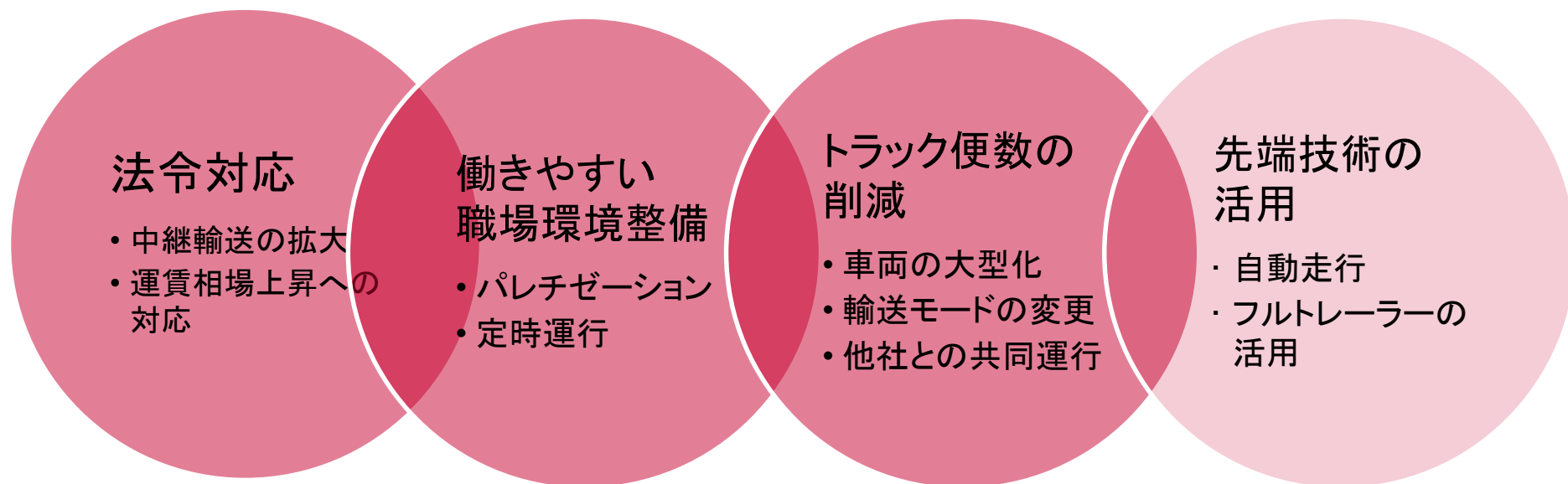




# 日本郵便からのご説明資料

2023年8月

- 郵便・物流事業のネットワークは、ハブ＆スポーク型で構築
- 輸送モードの8割超がトラックで行っており、2024年問題への対応は非常に重要



- ECが主流となった今、楽天市場を取り巻く現状を踏まえると、EC流通額拡大＝自社物流荷量の拡大が必要。
- 日本郵便と楽天は、楽天市場店舗向けの物流で従来から協業。今後、競合に対する競争力を向上をさせるために、協業関係をより強化していく。



**JP楽天ロジスティクス**

## 全てのステークホルダーの満足度向上へ

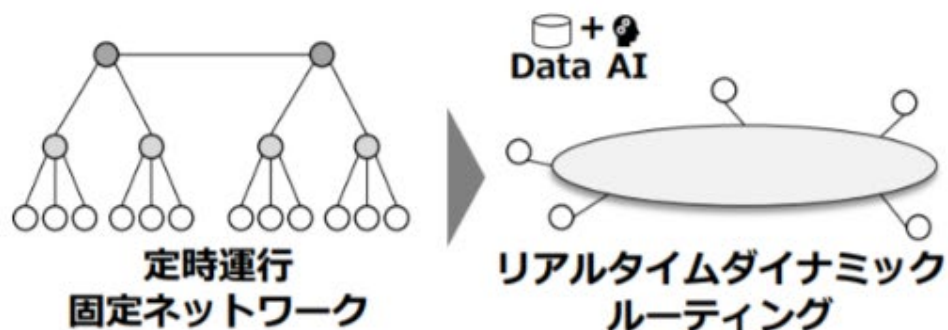
### 顧客UXの改善



### リードタイムの短縮



### 物流の効率化



### キャパシティの最大化



# 【楽天グループ様との連携】配達局直送のイメージ

- 従来はRFCの最寄りの地域区分局が荷物を引き受けていたが、全体的なコスト抑制や配送効率化のため、よりユーザに近い地域区分局や配達局で荷物を引き渡す。

## 直送化前



## 直送化後



# 【ヤマトグループ様との連携】ヤマトグループとの協業

- 両社の経営資源を有効活用することで、顧客の利便性向上に資する輸送サービスの構築と事業成長を図る。
- 相互のネットワークやリソースを共同で活用することで、物流業界が抱える以下のような社会課題の解決を目指す。
  - ①「2024年問題」(トラックドライバー不足など)の緩和への貢献
  - ②環境問題(カーボンニュートラル)への貢献



左からヤマトホールディングス・長尾社長、日本郵政・増田社長、日本郵便・衣川社長  
(2023年6月19日発表当時)

## 1) メール便のオペレーションイメージ図

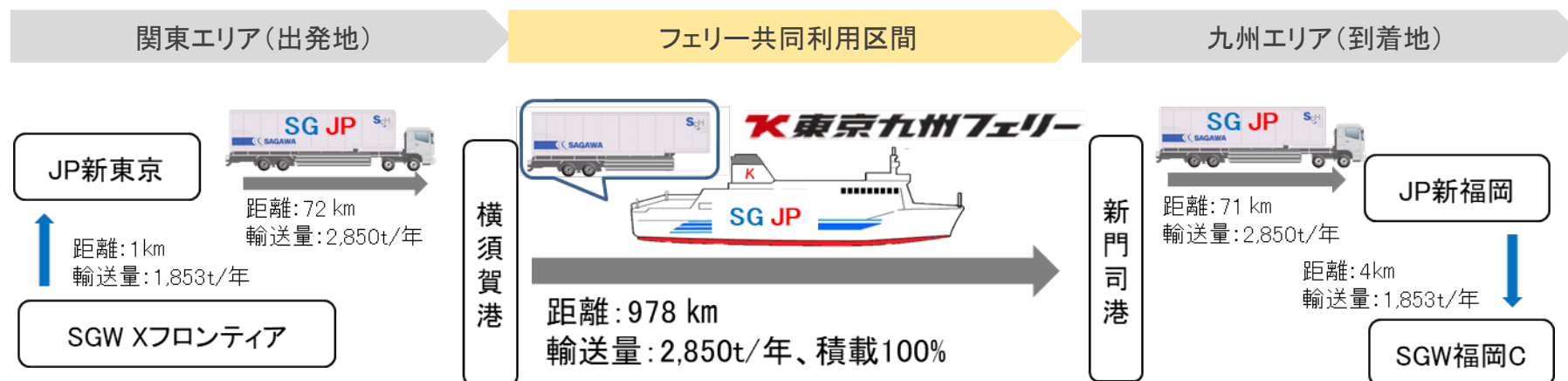


## 2) 小型薄物荷物のオペレーションイメージ図



# 【佐川急便様との連携】幹線輸送の共同化の取り組み事例

- 佐川急便のXフロンティアを出発し、新東京郵便局でJP荷物を積み込み、東京九州フェリーを利用。新福岡郵便局でJPの荷物を下ろした後、佐川急便の福岡センターに到着。2022年8月から運行開始



- JPの浜松西分室を出発し、SGW浜松営業所でSGW荷物を積み込み、新東京郵便局でJP荷物を下ろした後、佐川急便のXフロンティアでSGWの荷物を下ろす。2023年2月から運行開始

